

# 第1次

# 第1時

本時の  
目標

「文様」を読み、初めて知ったことや分かったを伝え合い、学習の見通しをもつことができる。

<p>主な学習活動</p>	<p>主な発問・留意点</p>	<p>児童の反応・板書例</p>
<p>1 題名と文様の写真から想像を膨らませる。</p> <p>2 「文様」を読み、初めて知ったことや分かったことをノートにまとめ、発表する。</p> <p>3 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>これから「文様」という説明文を読みます。題名や絵を見て、気づいたことはありませんか。</p> <p>○あから③までの文様の絵を一枚ずつ提示して気づいたことを伝え合い、説明文の内容に興味をもてるようにする。</p> <p>これから先生が「文様」を読みます。初めて知ったことや分かったことをノートに書き、発表しましょう。</p> <p>○教師の範読の後、子どもたちが一人一人読んで読み、全体で読んで読む時間を設ける。</p> <p>○説明文に書かれている内容を中心に、おおまかに捉えることができるようにする。</p> <p>これからの説明文の学習で、筆者がみなさんに分かりやすく伝えるために、どのような工夫をしているのかを読み取っていきましょう。</p>	<p>◎ 文様は、模様に似ているよね。</p> <p>◎ あは、よく見ると亀の絵が描かれているよ。</p> <p>◎ 鳥のような絵も描いてあるね。</p> <p>◎ いは鳥の絵だ。二羽、はつきり分かるね。</p> <p>◎ うは、花のような絵がたくさんあるように見えるよ。</p> <p>◎ 文様は、願いが込められていることを初めて知ったよ。</p> <p>◎ 「つるかめ」は、元気で長生きすることを願う文様だね。</p> <p>◎ 「かりがね」は、かりという鳥が飛ぶ様子を表しているんだね。</p> <p>◎ 「あさの葉」は、子どもたちが元気でしようぶに育つように願う文様だと分かったよ。</p> <p>◎ 三つの文様は全部、「いいことがありますように。」という願いがあるんだね。</p> <p>◎ 私は、いくつも見つけたよ。</p> <p>◎ 前の説明文で習ったこともあるよね。</p> <p>◎ 子どもの発言やつぶやきを広げ、次時の学習への意欲をもてるようにする。</p>

# 第1次

# 第2時

本時の  
目標

段落や文章構成などの役割を知り、文章全体の中心に着目して「問い」に対する「答え」を見つけていることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 学習課題を確認し、教科書をヒントに構成や段落などを知る。</p> <p>2 「問い」に対する「答え」がどこに書かれているかを確認する。</p> <p>3 4段落の書き方の違いを捉える。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>「文様」の筆者の熊谷さんは、みなさんに分かりやすく伝えるために書き方を工夫しています。教科書を見て確認しましょう。</p> <p>○子どもの気づきを基に、「段落」や「はじめ」「中」「おわり」など初めて学ぶことは丁寧に確認したい。</p> <p>「問い」に対する「答え」はどれでしょうか。また、文章のどこに書いてあるでしょうか。</p> <p>○「問い」の中の「ねがう文様」という言葉に着目することで、「答え」が見つけられる。</p> <p>4段落は、2・3段落と違う書かれ方をしています。どこが分かかりますか。</p> <p>○次の「こまを楽しむ」で、「ずぐり」の説明の書き方につながるため、必ず押さえたい。</p> <p>筆者の熊谷さんは、どんな工夫をしていたのか、最後に振り返りましょう。</p>	<p>◎段落というまとまりで文章を書いている。全部で5つの段落があるよ。</p> <p>◎「はじめ」「中」「おわり」と三つに分けられているよね。</p> <p>◎写真も使っていて分かりやすいよ。</p> <p>◎「はじめ」に「問い」があるよ。そして、「中」で答えが書かれている。</p> <p>◎「このように」は、まとめの役割だと分かりやすい。</p> <p>◎「どんなことをねがう文様があるのでしょうか。」と書いてあるから、「ねがう」という言葉に注目すると、「答え」が見つけられそうだね。</p> <p>◎それぞれの段落の最後に「答え」が書いてあるよ。</p> <p>◎最後の文が違うよね。</p> <p>◎「子どもの着物によく使われました。」は、付け加えられている感じがする。</p> <p>◎子どもの発言から、文末表現が過去形になって文が終わっていることを確認する。</p> <p>◎板書を基に、筆者の書き方の工夫や新しく学んだ学習用語を確認し、次時につなげる。</p>

## 第2次

## 第3時

本時の  
目標

「こまを楽しむ」を読み、「問いをもと」を基に感想を伝え合い、「もくひょう」を確認して学習の見通しをもつことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 題名や写真から、文章の内容を想像する。</p> <p>2 文章を読み、「問いをもと」を基に感想を書き、話し合う。</p> <p>3 「もくひょう」を読み、学習の見通しをもつ。</p>	<p>「こまを楽しむ」という題名や写真から、想像することを話し合います。</p> <p>○六つのこまの写真を順次提示して、気づいたことを伝え合うとよい。</p> <p>「問いをもと」を読みましょう。初めて知ったことや気になったこまのことをノートに書き、発表しましょう。</p> <p>○六つのこまを分類して板書し、そこへ子どもの感想を書くようにすると分かりやすい。</p> <p>○二次元コードを読み取り、「鳴りこま」の様子を動画で視聴するとよい。</p> <p>「もくひょう」を読みましょう。こまの説明を丁寧に読み、筆者の書き方の工夫を考えていきます。そして、学習の最後に、遊んでみたいこまについて話し合います。</p> <p>○「問いをもと」で考えたことを、筆者の書き方の工夫を考えると課題につなげたい。</p>	<p>◎ こまについて書かれている説明文だな。</p> <p>◎ こまにも種類があるのかな。どんなこまのことが書いてあるんだろう。</p> <p>◎ 不思議な形のこまもあるよ。</p> <p>◎ 「たたきこま」や「曲こま」は、初めて知ったよ。</p> <p>◎ 雪の上で回して楽しむ「ずぐり」というこまもあるんだね。雪が降るところの子どもたちが遊ぶんだろうね。</p> <p>◎ 「鳴りこま」の「ポーッ」という音を聞いてみたいな。</p> <p>◎ それぞれのこまの楽しみ方が書いてあるよね。</p> <p>● 子どもの発言を基に、全体としてどのようなことが書かれているか、おおまかに捉えられるようにする。</p> <p>◎ 「文様」で学んだことが「こまを楽しむ」でも同じように書かれているよ。</p> <p>◎ 私は「さか立ちこま」で遊びたいな。</p> <p>● 子どもの前向きな発言や既習の学習を想起するつぶやきなどを広げ、次時の学習につなげる。</p>

# 第2次

# 第4時

本時の  
目標

文章の全体と中心を理解し、段落相互の関係に着目しながら文章全体を「はじめ」「中」「おわり」に分けることができる。

<p>主な学習活動</p>	<p>主な発問・留意点</p>	<p>児童の反応・板書例</p>
<p>1 学習課題を確認し、「問い」が書いてある文に線を引く。</p> <p>2 教科書に段落番号をつける。</p> <p>3 文章全体を「はじめ」「中」「おわり」に分ける。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>今日は「問い」を確認して、文章を「はじめ」「中」「おわり」に分けます。この文章は、「問い」が二つあります。その文に線を引きましょう。</p> <p>○「問い①」は赤、「問い②」は青のように、色を変えて線を引く。</p> <p>教科書に段落の番号をつけましょう。</p> <p>○ P160「学習に用いる言葉」で段落の意味を確認し、番号をつける。</p> <p>P65の「全体と中心」を読みましょう。そして、文章全体を「はじめ」「中」「おわり」に分けましょう。</p> <p>○「こまを楽しむ」の中心は、こまの「種類」と「楽しみ方」である。そこに着目しながら、「文様」で学んだことも想起して構成を捉える。</p> <p>今日の学習を振り返りましょう。筆者の安藤さんは、どんなことを工夫して書いていましたか。</p>	<p>◎「問い①」は「どんなこまがあるのでしょ。」「だね。</p> <p>◎「問い②」は「どんな楽しみ方ができるのでしょ。」「だよ。</p> <p>●どちらの「問い」も、文末が「〜でしょう」となっていることを確認する。</p> <p>◎段落は、初めが一字下げて書いてあったよ。</p> <p>◎「色がわりごまは」から、2段落だ。</p> <p>●全部で8段落構成になっていることを捉える。</p> <p>◎「はじめ」は、「問い」がある1段落だね。</p> <p>◎「おわり」は、まとめの段落だね。「文様」と同じように、最後の段落の初めに「このように」という言葉があるよ。</p> <p>◎「中」は、こまの楽しみ方が段落ごとに説明されている。だから、「中」は2〜7段落だ。</p> <p>●学んだことを板書を基に想起しながら、筆者の書き方の工夫を振り返る。</p>

# 第2次

# 第5時

本時の  
目標

中心となる語や文を考えながら「問い」に対する「答え」を見つけ、「中」の書かれ方について考えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 学習課題を確認し、「問い」に対する「答え」を確かめる。</p> <p>2 「文様」と「こまを楽しむ」を比べ、「答え」の位置の違いを捉える。</p> <p>3 「中」には「答え」の他に何が書かれているかを読み取る。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>今日は、「中」にはどのようなことが書かれているかを考えます。まず、「問い」に対する「答え」が書いている文に線を引きましょう。</p> <p>○「問い①」に対する答えは赤、「問い②」に対する答えは青というように色を分けて線を引く。</p> <p>「文様」と「こまを楽しむ」の「答え」に注目します。何か違いはあるでしょうか。</p> <p>○「答え」の位置も、筆者の書き方の工夫であることを捉える。</p> <p>「中」には、「答え」の他にどんなことが書いてあるでしょうか。</p> <p>○本文と写真を結び付けながら、何が書かれているかを捉えることができるようにする。</p> <p>今日の学習を振り返りましょう。筆者の安藤さんは、どんなことを工夫して書いていましたか。</p>	<p>●「問い①」の答えは、2段落では「色がわりこま」だ。ここに赤い線を引こう。</p> <p>○その後の「回っているときの色を楽しむこまです」というのが、「問い②」の答えになっている。</p> <p>●一文に、二つの「問い」に対する「答え」が書いてあることを確認するとともに、全ての「答え」の書かれ方が同じであることを捉えられるようにする。</p> <p>○「文様」は、段落の最後に「答え」が書いてあったよ。</p> <p>○「こまを楽しむ」は、段落の最初に「答え」が書いてあるね。</p> <p>○こまの形が書いてあるよ。</p> <p>○「答え」の次に、こまの形が書いてあるから分かりやすいよね。</p> <p>○「鳴りこま」は、別の呼ばれ方が書いてあるよ。</p> <p>●学んだことを板書を基に想起しながら、筆者の書き方の工夫を振り返る。</p>

# 第2次

# 第6時

本時の  
目標

筆者が、どのような順序で六種類のこまの説明をしているのかを捉えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 学習課題を確認し、六つのこまの写真を順番に並び替える。</p> <p>2 どのような順序で説明されているかをノートに書き、発表する。</p> <p>3 「めぐり」がどうして最後に説明されているかを考える。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>今日は、筆者の安藤さんが六つのこまをどのような順序で説明しているのかを考えます。まず、六つのこまの写真を説明されている順序で並べ替えましょう。</p> <p>筆者の安藤さんがどのような順序で説明しているのかを考え、発表しましょう。</p> <p>○こまを楽しんだ経験や文章表現に注目して、事例の順序について考えられるようにする。</p> <p>○「たたきこま」以降は、子どもにとって身近ではないことを捉えながら展開したい。</p> <p>では、「めぐり」が最後に書かれているのはどうしてでしょうか。</p> <p>○「文様」の学習を想起し、事例の最後の説明が過去形で終わっていたことを確認する。</p> <p>今日の学習を振り返りましょう。筆者の安藤さんは、どんなことを工夫して書いていましたか。</p>	<p>● 写真だけでなく、本文の短冊もあると分かりやすい。</p> <p>◎ 「色がわりごま」は幼稚園でもやったから、私たちが分かりやすいこまから説明していると思う。</p> <p>◎ でも、私は「さか立ちこま」で遊んだことがあるよ。</p> <p>◎ 「色がわりごま」と「鳴りごま」は、「色を楽しむ」と「音を楽しむ」で、見る↓聞くとつながるように、この二つのこまを続けて書いたんじゃないかな。</p> <p>◎ 雪が降る地域の人しか分からないからだと思う。</p> <p>◎ 「文様」と同じように、最後の文は「〜でした」となっている。「です」でもいいと思うけれど、「でした」のほうが、説明が終わった感じがするね。</p> <p>● 学んだことを板書を基に想起しながら、筆者の書き方の工夫を振り返る。</p>

# 第2次

# 第7時

本時の  
目標

文章全体の「おわり」の役割を捉え、筆者は六種類のこまの楽しみ方を「回る様子」と「回し方」でまとめて説明していることを捉えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 学習課題を確認し、「おわり」に書いてあることを捉える。</p> <p>2 六つのこまの種類を「回る様子」と「回し方」を楽しむこまに分ける。</p> <p>3 事例の順序で分かったことを発表する。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>今日は「おわり」を読んで、こまにはどんな楽しみ方があるのかを考えます。「おわり」には、どんなことが書いてあるでしょうか。</p> <p>○こまの楽しみ方は二種類あることを捉える。</p> <p>六つのこまは、「回る様子」を楽しむこまでしょうか。「回し方」を楽しむこまでしょうか。説明の一文目を見て考えましょう。</p> <p>○各段落の一文目を短冊で黒板に提示する。</p> <p>○前半三つは「回る様子」、後半三つは「回し方」を楽しむこまだということを捉える。</p> <p>これらのことから、どんなことが分かりましたか。</p> <p>今日の学習を振り返りましょう。筆者の安藤さんは、どんなことを工夫して書いていましたか。</p>	<p>●「このように」で、これまでの文章をまとめているね。</p> <p>●最後の文末は「のです」と強調して終わっているよ。</p> <p>●こまの楽しみ方には、「回る様子」と「回し方」の二つの楽しみ方があるんだね。</p> <p>●「色がわりごま」は、「回っているときの色を楽しむ」だから、「回る様子」を楽しむこまだね。</p> <p>●「鳴りごま」も、同じように書かれているから、「回る様子」を楽しむこまだよ。</p> <p>●「たたきごま」は、「たたく回しつづける」とあるから、「回し方」を楽しんでいるね。</p> <p>●最初は「回る様子」を楽しむこま、最後は「回し方」を楽しむこまに分けられているよ。</p> <p>●ばらばらでないから、分かりやすいね。</p> <p>●学んだことを板書を基に想起しながら、筆者の書き方の工夫を振り返る。</p>

# 第3次

# 第8時

本時の  
目標

いちばん遊んでみたいこまをノートにまとめ、グループで話し合おうとしている。

<p>主な学習活動</p>	<p>主な発問・留意点</p>	<p>児童の反応・板書例</p>
<p>1 本時の学習課題を確認し、いちばん遊んでみたいこまをノートに書く。</p> <p>2 いちばん遊んでみたいこまについて、グループで話し合う。</p> <p>3 学習全体を振り返る。</p>	<p>今日は「こまを楽しむ」で読んだこまの中から、いちばん遊んでみたいこまをグループで話し合います。</p> <p>○ P 63 下段の「かんそうをつたえ合うときのれい」を参考にしてノートにまとめ。</p> <p>ノートに書いたことをグループで伝え合しましょう。</p> <p>○ 自分の感想と似ているところや違うところも伝えるようにする。</p> <p>学習全体を振り返りましょう。筆者の安藤さんは、どんなことを工夫して書いていましたか。</p> <p>○ これまでの学習を想起することが大切である。「ふりかえろう」「たいせつ」「いかそう」を参考にして、学習全体を振り返る。</p>	<p>こまを楽しむ</p> <p>安藤正樹</p> <p>いちばん遊んでみたいこまをグループでつたえ合おうかんそうをつたえ合うときのれい</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ぼくは、色がわりごまで遊ばたいと思いました。</p> <p>このこまは、回っているときの色を楽しむことができるこまです。</p> <p>回す速さで、どんなふうにも色がかわるのかを、見てみたいと思いました。</p> </div> <p style="text-align: center;">こまのしゅるい</p> <p style="text-align: center;">楽しみ方</p> <p style="text-align: center;">えらんだ理由</p> <p>学習全体をふりかえって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめ」「中」「おわり」に分けて文章を書いていた。</li> <li>・段落は、内容のまとまりで書かれていた。</li> <li>・こまを説明するじゅんばんに気をつけていた。</li> <li>・「問い」に対する「答え」に気をつけて読むと、段落で書かれていることのが分かった。</li> </ul>

### ■ 本実践案のポイント

本実践案では、単元名を「筆者の書き方の工夫を読み取る」とした。筆者は、実にさまざまな工夫をして文章を書いている。文章構成、段落のまとめ、**「問い」と「答え」**、事例の順序、写真の使い方、文末表現……。それは、読み手に知ってほしい、分かっただけという思いがあるからだ。しかし、実際の教室で子どもたちから筆者の名前が出ることは少ない。教師自身にも、あまり意識されないのが実情ではないだろうか。そこで、本案では筆者を意識して文章を読みながら、指導目標に迫っていきたいと考えた。

そのため、「読み手に分かりやすく伝えるために、筆者はどのような工夫をしているのか読み取ろう」という単元全体を貫く学習課題を設定する。まずは、教師が意図的に筆者の名前を用いながら、子どもに問いかけたり、板書したりすることが大切だ。子どもの発言に筆者の名前が出てくる、そのような学習を展開したい。

### ■ 新教材「文様」のポイント

第三学年からの説明文の学習では、本教材に入る前に練習教材が位置づけられている。新教材の「文様」は見開きで書かれているため、子どもにとって文章構成が捉えやすい。

では、「文様」を読んで、子どもはどのようなことに気づくだろうか。まず、文章上部の「はじめ」「中」「おわり」があることに気づくだろう。「はじめ」は話題提示から始まり、「問い」がある。「問い」と「答え」に赤線が引いてある

ので、ひと目で分かる。すると、3段落の「かりがね」、4段落の「あさの葉」もどこかに「答え」がある子どもも考える。大切な言葉は、文章中で繰り返し使われる。それを知ると、文章の中心を捉えることができる。

「文様」では、「どんなことをねがう文様があるのでしょうか。」が「問い」に当たる。すると、「答え」にも「ねがう文様です。」と「問い」と同じ表現があることに気づくだろう。そこに着目すると、子どもは「答え」に当たる部分を容易に捉えることができるはずだ。

次に、子どもは段落番号に気づくだろう。段落でまとめがあるからこそ、文章は読みやすくなる。段落の役割を理解するには、段落をなくした「文様」の文章を提示することもできる。その文章を5段落で分けるとすると、子どもは必然的に内容のまとめを意識するに違いない。

最後に考えたいのが、「おわり」である。「文様」「こまを楽しむ」ともに、「このように」からまとめに入っている。第二学年の「たんぼのちえ」などを想起させながら、「おわり」には「まとめ」の働きがあることを押さえたい。

### ■ 次の学習への展望

筆者を意識して学習を進めた子どもたち。次に学習する説明文は「すがたをかえる大豆」だ。ここでも、筆者の説明の工夫を意識しながら読んでいきたい。「こまを楽しむ」と「すがたをかえる大豆」を比べながら、構成や表現の共通点、相違点を捉えていくと、実りある学習となるだろう。